

よりよい暮らしはみんなの願い
みんなで利用、みんなで参加

7~8月

生協だより

大阪府職員生活協同組合

〒540-0008
大阪市中央区大手前3-1-43(新別館北館内)
TEL(06)6941-0351(内線5761~3)
(06)6942-0990(直通)
FAX(06)6942-0246
Eメール:k-coop@vega.ocn.ne.jp
http://www.konnitiwa-seikyo.com/

ウナギが入った時の筒のあの
手ざわり…笛をふいた時のような
ふわふわとした感触がたまらぬ。
これがあるから50年続けてこれたん
かもしれないね。



船に乗せてもらい、ウナギ漁の現場に…。ウナギは夜行性で、夜に川でカニやエビなどの餌を食べ、日中は細長い体を隠すことができる砂の中や岩の割れ目などに潜んで寝ている。ウナギは約90cmの竹の筒を川底に沈め、鰻の寝床にするというしかなか。松浦さんは竹筒を350個、それぞれ1mおきにロープで繋ぎ、しかけている。その竹筒を一本一本、丁寧に引き上げ、中を見ていく。今回は15個くらいの中、2匹入っていた。そのウナギを見て、何とも言えない、とびきりの嬉しそうなお顔をされた松浦さんのお顔が印象的だった。

ウナギがとれた!



大阪を代表する、淀川が大阪湾にそそぐ河口で漁師を続ける松浦萬治さん(76歳)を訪ねた。西淀川区姫島の船着場でお会いしたが、第一声は「今日は東の風が少し強いけど、駄目もど(ウナギ獲りに)行ってみるか?」だった。東風が吹くと川に海の水が上がってきて、ウナギがしかりに入りにくくなるという。この流域は海水と淡水の入り混じる汽水域だ。漁は気候次第だが、風の向きや強さも微妙に漁に影響するといふ。

おおさかの 笑顔 元気人
●大阪市漁業協同組合 松浦 萬治さん



~大阪の宝・淀川を守り、次世代へ…~ ウナギ シジミ漁 50年!

大学の海洋学部で環境問題を学んだことと、この地にご縁があったので入協しました。歴史と人々の営みを知れば知るほど、川や海の大切さをわかりやすく、市民に知らせていく必要性を強く感じています。そして、農林水産業の成り立つ地域に戻していきたいですね。松浦さんが、50年間あきらめることなく、続けてくださった伝統の漁、本当にうれしく思っていますし、後継者に手渡すことが私達の仕事だと思っています。



大阪市漁業協同組合 総務部 畑中啓吾さん(34歳)



鰻の寝床

冬の間にウナギの寝床になる「竹筒」を作る作業をする。ウナギを傷つけないよう、竹の節は丁寧にとるといふ。

裏表紙(4面)の「旬の味・鰻」もご覧ください



淀川のウナギは、餌がいいので、ほんま美味しいんですよ。疲れた時に、家で自分で蒲焼にして食べるけど、箸がすっと入ってね、めちゃくちゃ美味しい。淀川のウナギ食べたら、今出回ってる中国産のウナギなんか食べられへんで。



子どもの頃からシジミ獲り



淀川が好きやねん!



うちは西淀川で代々続く漁師でね。小さい頃は干潟でよく泳いだものです。海水浴場もあったしね。おじいちゃんや親父から淀川や大阪湾の歴史、地域に伝わる祭事などの話をよく聞かされました。そやからやるね、最近、地域のあり方を考えなあかん時期やと思うようになりました。ゴミは平気で捨てるし、市民が利用できない土地ばかり増えるし…衣・食・住、地産地消、当たり前姿に戻らんと…。歴史の宝庫であり食の宝庫やったこの地域の環境をしっかりと守って、子どもたちに残していくのが務めやと思っています。生物が生きやすい環境は、自分たちにとっても生きやすい場所やもんね。その意味でも淀川のウナギやシジミは大量には獲れないけど、大切な地域の財産やね!自然の餌が多いから美味しいウナギが獲れる。伝統漁法を守り、乱獲を防ぐためにも流通ルートを整備し「淀川産」の名が世に知られるように頑張りまっせ!



大阪市漁業協同組合 代表理事組合長 北村英一郎さん(49歳)



梅田の高層ビル群をバックにウナギ漁を続ける松浦さん。

「漁は、自然が相手、魚の習性を研究してのたまし合い…。自分で工夫してやれるところがええね。これからはぼちぼちやりますわ。ゆっくりね。ええ時もあるやから…」目を細めた穏やかなお顔とその語り口に、心から癒される。淀川と共に生き、これからも悠々と生き続ける松浦さん、とにかく漁場が好き、この淀川が好き、ここに住む生き物が好き、そのことが地域を支え、人を育てている。

最近の水もきれいなって、シジミも美味しく湧いてるやね。梅雨のころのシジミが一番美味しいからね。シジミを獲るの、今から楽しみにしてるんですよ。自然の恵みやね…。



4面に「ミニハートフルイベント・ジャンボクロスワードパズル」の案内を掲載しています。ぜひご覧ください。